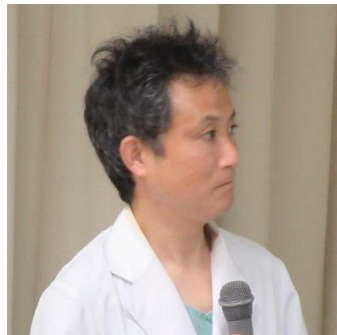


Morning Lecture  
2016.02.18 Thu.

# 嘔気 • 嘔吐

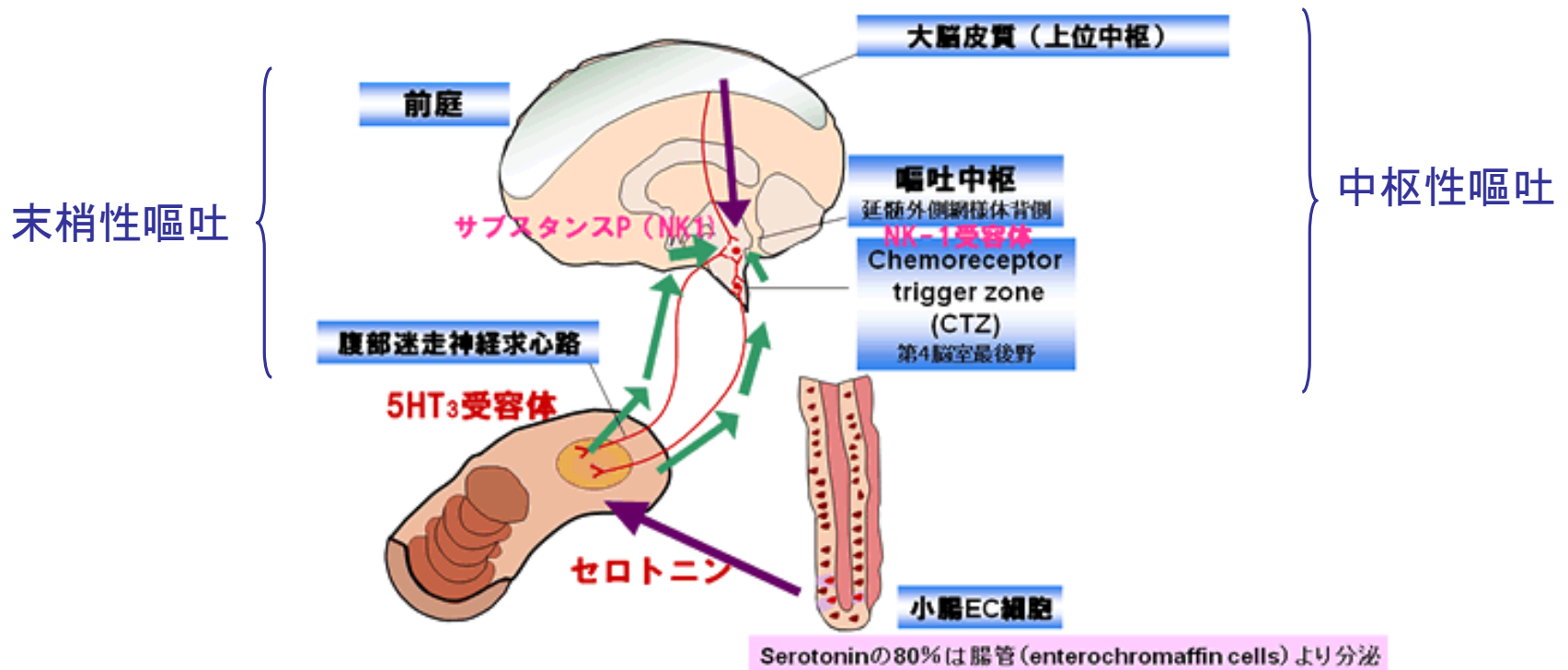


鳥取市立病院  
外科  
山村 方夫

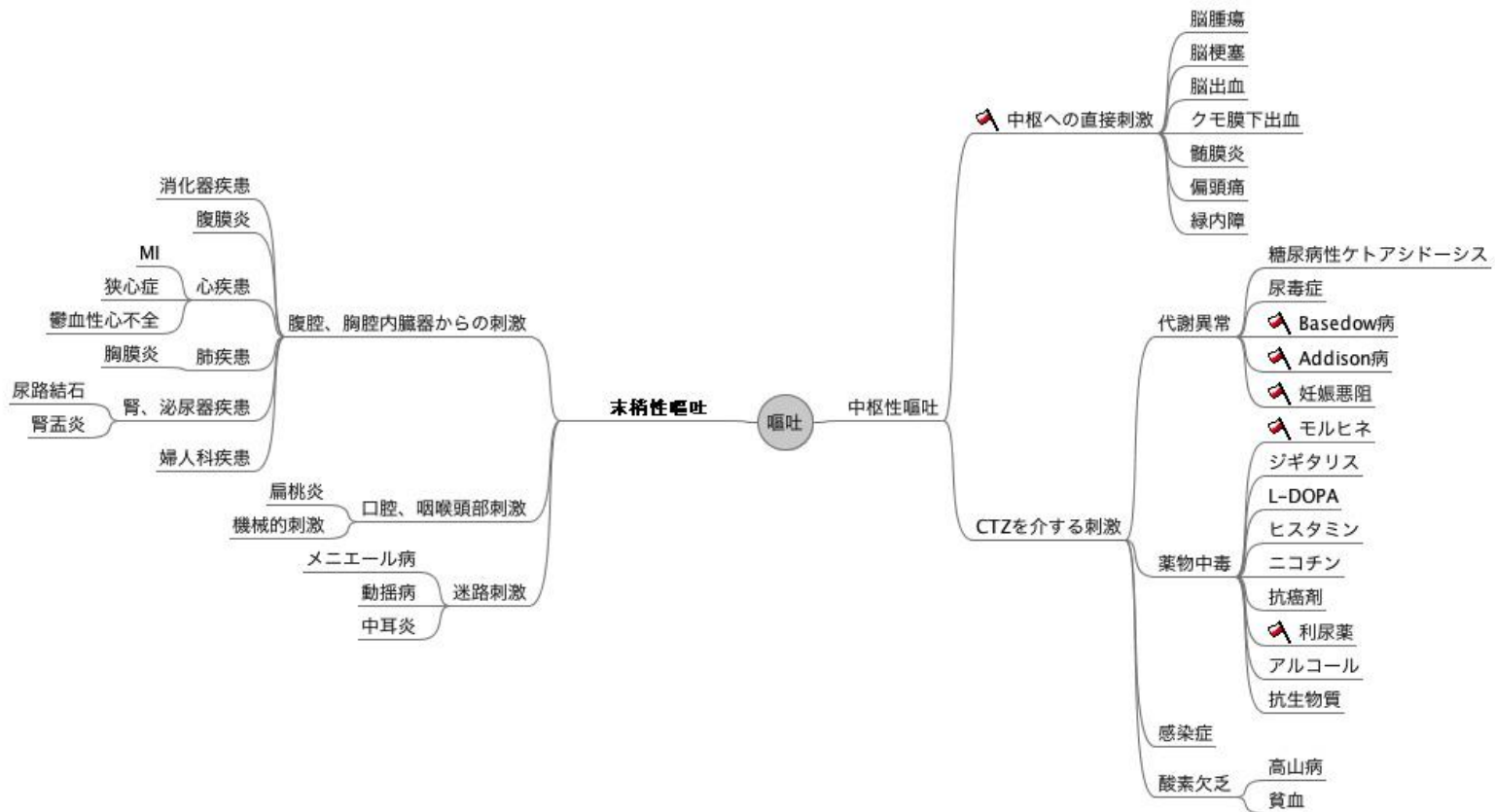
# 定義

- 嘔気とは、  
「吐きたくなるような切迫した不快な自覚症状である」
- 嘔吐とは、  
「消化管内容物を反射的に口から出すことである」

# 嘔気・嘔吐の病態生理



# 嘔気・嘔吐の原因



# 中枢性嘔吐をきたす疾患

- 薬物(モルヒネ、ジギタリス、抗菌薬、抗悪性腫瘍薬、降圧薬、アミノフィリン、コルヒチン、アルコール など)
- 毒物(重金属、ガス など)
- 放射線(各種癌治療)
- 感染症(細菌毒素)
- 内分泌疾患(肝性脳症、糖尿病性ケトアシドーシス、尿毒症、妊娠悪阻 など)
- 代謝疾患(甲状腺クリーゼ、副腎不全、Addison病 など)
  
- 直接刺激
- 脳圧亢進(頭部外傷、脳腫瘍、脳出血、くも膜下出血、髄膜炎、放射線照射 など)
- 脳循環障害(ショック、低酸素性脳症、脳梗塞、片頭痛、脳炎、髄膜炎 など)
  
- 精神的要因(視覚や嗅覚刺激、神経性食思不振症、うつ病、てんかん、ヒステリー、抗悪性腫瘍薬投与時の予期性嘔吐 など)

# 末梢性嘔吐をきたす疾患

- 消化管疾患(GERD、食道裂孔ヘルニア、AGML、胃十二指腸潰瘍、虫垂炎、食中毒など)
- 消化管通過障害(消化管腫瘍、幽門狭窄、術後腸閉塞、内ヘルニア、ヘルニア嵌頓など)
- 腹膜疾患(腹膜炎 など)
- 肝胆膵疾患(急性肝炎、急性胆嚢炎、胆管炎、急性膵炎、悪性腫瘍 など)
- 循環器疾患(心不全、狭心症、心筋梗塞 など)
- 泌尿器科疾患(尿路結石、急性腎炎、腎盂腎炎 など)
- 耳鼻咽喉科疾患(メニエール病、中耳炎、乗り物酔い など)
- 眼科疾患(緑内障 など)
- 呼吸器科疾患(胸膜炎、咳嗽発作 など)
- 婦人科疾患(子宮付属器炎、月経前症候群、更年期障害 など)
- 脊髄疾患(脊髄癆、多発性硬化症 など)
- 自己免疫性疾患(結節性多発動脈炎、強皮症、側頭動脈炎 など)
- その他

# NAVSEA

- N neuro, CNS (頭蓋内病変、脳血管障害)
- A abdominal (消化管および消化器腹膜)
- V vestibular (前庭神経刺激)
- S somatopsychiatric/sympathetic  
(心身症/精神疾患、交感神経系の亢進)
- E electrolyte/endocrinologic disorder  
(電解質異常、内分泌疾患)
- A addiction (薬物中毒)

# 見逃してはならない疾患

- 頭蓋内病変（脳出血、小脳梗塞、髄膜炎）
- 急性冠症候群
- 糖尿病性ケトアシドーシス
- 腎盂腎炎
- 急性虫垂炎
- 絞扼性イレウス
- 妊娠（子宮外妊娠）
- 急性緑内障
- 薬物中毒（ジゴキシン、テオフィリン）



# 嘔気・嘔吐の評価

- 病歴の聴取
- 身体診察
- 血液生化学検査
- 画像検査

# 病歴聴取のポイント

- 発症および進展様式
- 吐物の性状と回数、量
- 随伴症状
- 既往歴、生活歴
- 妊娠の有無と月経歴
- その他

# 発症および進展様式

- 発症時間および期間
- 誘因
- 前兆の有無
- 症状の変動の有無
- 食事の内容と摂取から発症までの時間的関係
- 周囲に同症状の者がいないか

# 吐物の性状と回数、量

- 血液
- 胆汁
- 便臭の有無

# 随伴症状

- 発熱、悪寒、戦慄
- 腹痛
- 下痢
- 頭痛
- めまい
- 胸痛、胸部圧迫感
- 眼痛 など

# 既往歴、生活歴

- 過去の同様のepisodeの有無
- 高血圧、心疾患、肝疾患、腎疾患、糖尿病、内分泌疾患などの治療歴
- 手術歴(特に開腹手術)
- 放射線治療
- 職業歴(有機溶媒、化学薬品)
- 最近の転居(sick house)
- 海外渡航歴

# その他

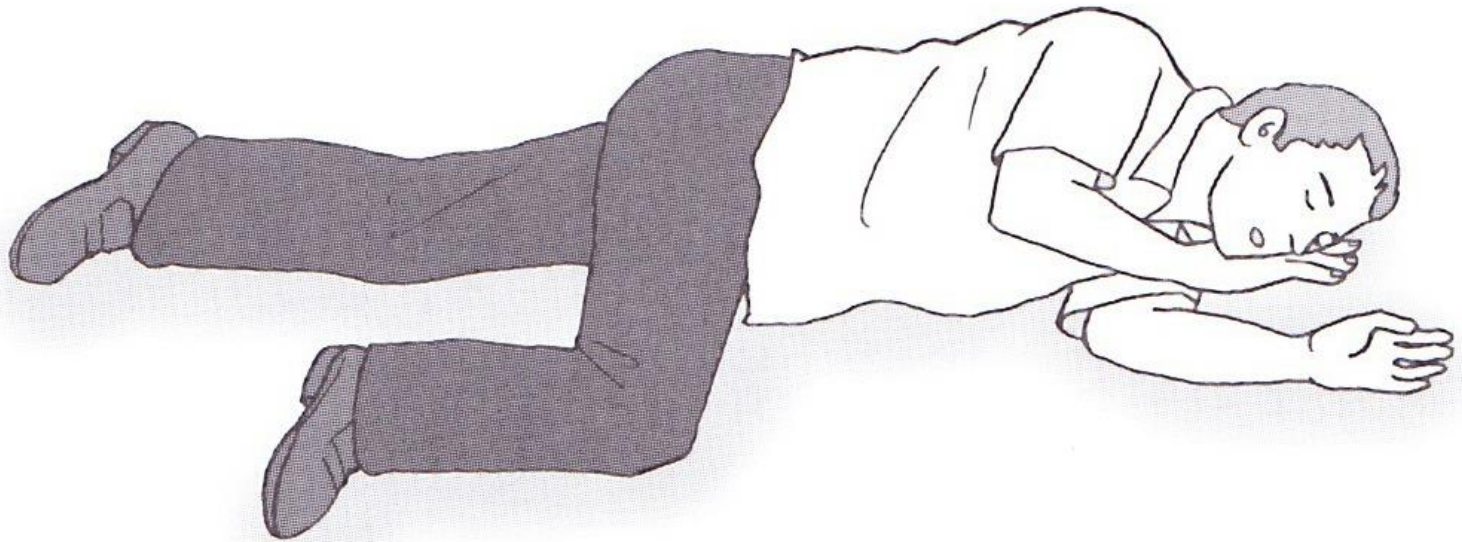
- ダイエットをしているか
- 肥満、食物への嫌悪感がないか
- 長期間の絶食や飢餓の有無

# 治療

- 基本は原因疾患の治療！
- 嘔吐が強い、経口摂取が困難 などあれば補液を行う。
- 電解質の補正
- 原因が特定できない、原因疾患の治療が困難であれば対症療法が選択されることになる。



# 昏睡体位



出典「救急蘇生法の指針」へるす出版 2010

# 嘔気嘔吐の治療に用いられる薬剤

中枢性

末梢性

- D2 ドーパミンD2受容体拮抗薬
- 5HT<sub>3</sub> セロトニン受容体拮抗薬
- Achm ムスカリン受容体拮抗薬
- H<sub>1</sub> 抗ヒスタミン薬

● D2  
セレネース

● D2  
プリンペラン  
ナウゼリン

● Achm  
ストロカイン  
アトロピン  
ブスコパン  
コリオパン

● D2 ● H<sub>1</sub> ● Achm  
フェノチアジン系  
ピーゼットシー, トリラホン(ペルフェナジン)  
ノバミン(プロクラルペラジン)  
コントミン, ウインタミン(クロルプロマジン)

● D2 ● H<sub>1</sub> ● Achm ● 5HT<sub>3</sub>  
ヒルナミン(レボメプロマジン)  
オランザピン(ジプレキサ)

● 5HT<sub>3</sub>  
カイトリル  
ゾフラン  
セロトーン  
ナゼア  
ナボバン  
シンセロン

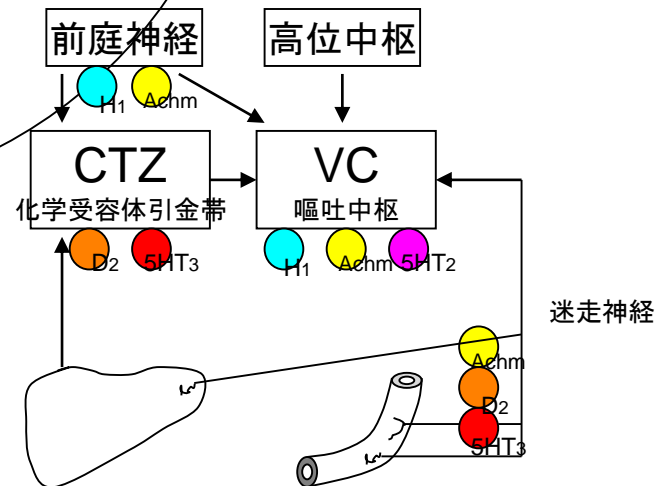
ガスマチン  
セレキノン  
ガナトン

● H<sub>1</sub> 抗ヒスタミン薬  
ドラマミン, トラベルミン  
クロールトリメトン

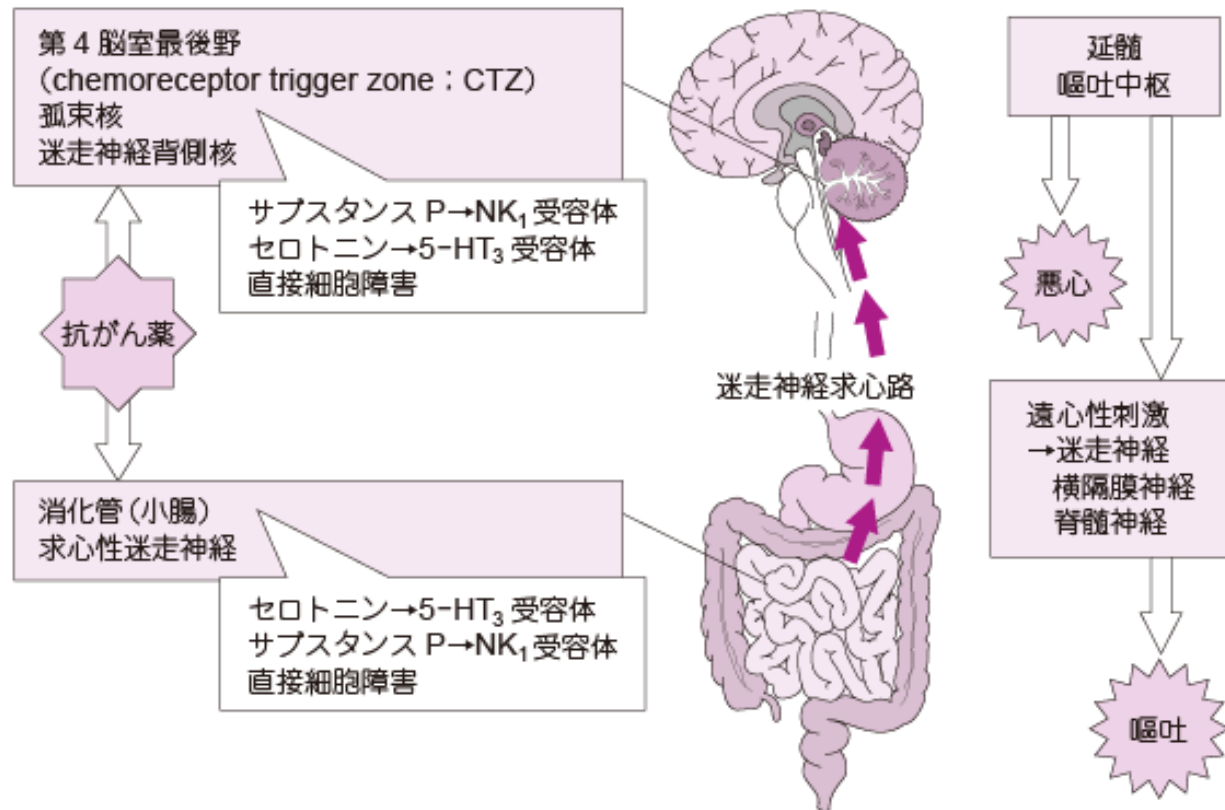
● H<sub>1</sub> ● Achm  
ピレチア, ヒベルナ(プロメタジン)

その他

副腎皮質ステロイド剤  
ベンゾジアゼピン系薬剤



# 抗がん剤による悪心・嘔吐 のメカニズム



# 抗がん剤による悪心・嘔吐の種類

- 投与後24 時間以内に出現する急性の悪心・嘔吐 (acute emesis)
- 24 時間後から約1 週間程度持続する遅発性の悪心・嘔吐 (delayed emesis)
- 制吐薬の予防的投与にもかかわらず発現する突出性悪心・嘔吐 (breakthrough nausea and vomiting)
- 抗がん薬のことを考えただけで誘発される予期性悪心・嘔吐 (anticipatory nausea and vomiting)

# 抗がん剤の催吐性リスク

リスク分類	嘔吐頻度	抗がん剤
高リスク	90%以上	ドキシソルビシン, エピルビシン/シクロフォスファミド (AC/EC療法), シスプラチン, シクロフォスファミド, ダカルバシン
中リスク	30~90%	カルボプラチン, オキサリプラチン, シクロフォスファミド, ドキシソルビシン, エピルビシン, ダウノルビシン, イダルビシン, イリノテカン, シスプラチン, イホスファミド, シタラビン, メトトレキサート, イマチニブ
低リスク	10~30%	カペシタビン, ドセタキセル, 5-FU, ジェムシタビン, エトポシド, メトトレキサート, パクリタキセル, シタラビン, ペメトレキセド, リボソーマルドキシソルビシン
最少リスク	10%未満	ブレオマイシン, ビンクリスチン, ビノレルビン, ビンブラスチン, メトトレキサート, ラパチニブ, トラスツマブ, セツキシマブ, ゲフィチニブ, エルロチニブ, ソラフェニブ, スニチニブ, サリドマイド, リツキシマブ, ボルテゾミブ, ダサチニブ, ベビシズマブ

# 緩和ケアにおける嘔気・嘔吐

- Neuro: 脳転移、がん性髄膜炎
- Abdominal: 消化管閉塞、便秘、腹水、上部消化管潰瘍
- Vestibular: 頭蓋底への転移、頭位変換
- Somatopsychiatric/Sympathetic: 抑うつ、予期性嘔吐
- Electrolyte/Endocrinologic disorder: 高Ca血症
- Addiction: オピオイド、NsAID、抗うつ薬、SSRI、ジギタリスなど

# 緩和ケアにおける制吐療法

# 症例

90歳 女性

食欲不振あり、翌日当院救急外来受診、急性腸炎として帰宅される。

その2日後に、近医受診されイレウスの診断で再度当院紹介。





